

福島県猪苗代町農業体験！～猪苗代町の特徴を学ぶ～

- プログラム概要 : 農業を通して農家の運営などを実感する
 実習先 : (有)グリーンハウス、はじまりの美術館、土津神社、長照寺
 参加人数 : 7名(1班)
 学部学科 : ウェルビーイング学科、経済学科、人間科学科、政治学科、法律学科
 実習期間 : 令和6年8月19日～8月29日
 本学担当教員 : 武田 憲明(教育学部)

農業編

○初めに

農業体験では実際に体験を通してどのように農業を運営しているか理解する

○経験したこと

キャベツの苗植え・キャベツや花の種撒き
 ビニールハウスの手入れ
 特定外来生物ウチダザリガニの駆除

○学んだこと

苗を置く人・植えて土をかぶせる人等のように分担作業を行うことで効率的に作業を進める事ができた。

猪苗代の農業用水路は特定外来生物ウチダザリガニが住みつき邪魔になっているビニールハウスでは雑草を抜いたり、ネットを外したりなどのケアを行った。

○まとめ

作物を作るにもただ苗を植えて世話をするだけでなく周りの環境を整えることも大事かつ大変な作業が伴うことが学べた。



学習編

○はじめに

「長照寺」「土津神社」の歴史と猪苗代の風土について理解する。
「はじまりの美術館」ではアートと福祉についての理解を深める。

○「土津神社」での実習内容

お参り・清掃活動・土津神社の歴史について

○「土津神社」で学んだこと

保科正之公という徳川家とつながりのある人物ゆかりの土地であること。
近くを流れる川は意図的に作り、農業用水路として活用した。

○「長照寺」での活動内容

座禅・ワークショップの下準備・写経

○「長照寺」で学んだこと

座禅や写経を通して普段は気にしない生活音を気にしたり、時間の流れがつかめなかったりなど、いつもとは違う時間を過ごすことができた。

長照寺は周りに溶け込んだお寺を目指しているようで、曼荼羅を糸で作るなどのワークショップを実施していること。

○「はじまりの美術館」での活動内容

アート鑑賞・アートを通して自分が感じた事の説明録音

○「はじまりの美術館」で学んだこと

学芸員さんのお話付きで鑑賞できたことはとても面白かった。

障害を持っていても世界で活躍しているアーティストがいること。

○まとめ

神社・寺・美術館という普段訪れる事のない場所を訪れてかつそこで働いている方の実際の説明を聞くことができるととても貴重な経験になった。



福島県猪苗代町農業体験！～猪苗代町の特色を学ぶ～

- プログラム概要 : 農業体験、美術館にて音声ガイド作り、土津神社、長照寺、野口英世記念館
 実習先 : (有)グリーンハウス、はじまりの美術館、土津神社、長照寺、野口英世記念館
 実習先情報 : 雪下キャベツが有名、地域に根差した福祉とアートが両立する場所
 参加人数 : 7名(2班)
 学部学科 : 社会福祉学科、グローバルコミュニケーション学科、看護学科、日本文学文化学科、ウェルビーイング学科、サステナビリティ学科、政治学科
 実習期間 : 令和6年9月5日～9月15日
 本学担当教員 : 武田 憲明(教育学部)

○はじめに

このFSは農業体験だけでなく美術館や土津神社、長照寺、野口英世記念館などの様々な場所での活動を通して猪苗代、会津の歴史と地域連携について学んでいった。

○実習内容

～農業～

- ・特定外来生物ウチダザリガニの駆除活動
- ・ジャガイモの収穫
- ・草むしり
- ・ドライフラワーづくり



秋元湖にてウチダザリガニの駆除



ニンジンの種まき

～はじまりの美術館～

- ・美術作品鑑賞
- ・音声ガイドづくり



はじまりの美術館



選んだ作品を音声ガイドに



～その他～

- ・土津神社
- ・長照寺
- ・マルシェの準備、運営



マルシェの手伝い



長照寺での作務

○提案したこと、発信したこと

今の日本は、特に都会において人とのつながりが昔に比べて薄くなっているように感じる。そのためこの猪苗代で見てきたような近くに住む人同士の助け合い、協力、地域ぐるみでの人とのつながりが、ほかの地域でも強まれば何かあったとき(災害等)にお互いを支えあうことができるのではなかろうか。

○経験したこと、学んだこと

普段何気なく食べている野菜を育て、収穫することの大変さを学んだ。農業はしゃがんでの作業が多く足腰に負担がかかる。また収穫物が少ないと精神的にもつらいところがある。(これはジャガイモの収穫で特に感じた。)

美術館では、ただ芸術作品に触れるだけでなく、障がい者福祉や地域活動の現状とむずかしさ、そして表現の自由さを鑑賞や音声ガイド作りで感じた。

土津神社、長照寺、野口英世記念館では猪苗代、会津の歴史に触れ、神域整備とご祈祷、寺での修行体験で心を律し、記念館では野口英世の生涯や感染症についての知識を深めた。そして何より、普段の生活ではあまり感じられなかった「人とのつながり」を密に感じることができた。

○今後の展開、今後の学び

現在の農業における問題点の解決案を模索する。
SNSを利用したより発信力のあるPR方法を考える。

○まとめ

このFSではカリキュラムだけでなく共同生活やメンバー、地元の方々とのコミュニケーションによって初めて成り立つ。無事にすべての活動が終了したことと多くの方のおかげで様々な体験ができたことに感謝し、今後活かしていきたい。

